

## La mode pratique : revue de la famille (ラ・モード・プラティック)

Paris : Librairie Hachette, 1891 — [19 --]

Hiler p.620 Colas 2088 Lipper. 4808

表題のとおり一般家庭向きの「実用モード週刊誌」で、とり立てて高級でも上品でもないところが本誌の特徴である。しかし、これにはモード史上に果たした無視できない重要な役割があり、それはまさしく画期的なものだったといえることができる。なぜなら、他の新聞や週刊誌と同じく本誌そのものはザラ紙に印刷されたが、上質紙に刷ったプレートが別刷りになっており、実はそこに初めて人工着色写真の写真版が使用されたのである。いわば写真を用いたファッションプレートの草分けというわけである。それまでのモード誌といえば、本誌のモノクロ図版の大半が、いわゆる緻密な木口木版 (wood engraving) かあるいは鋼鉄版 (steel engraving) か、そうでなければ石版 (lithograph) 刷りのいずれかであった。活字の組版のなかにそれらの版を組んだのであり、それが一

般的な版組法であった。

他方、ファッションプレートの伝統方式といえば、上質紙に銅版 (もしくは、やがて石版) で墨線だけを刷ったものに手で彩色を施す手法がとられた。つまり銅版手彩色 (もしくは石版手彩色) というわけである。もちろん色刷り石版のプレートも間もなく現われる。だが、写真版の、しかも人工着色写真のプレート印刷が出現するのは、この「ラ・モード・プラティック」が初めてで1891年から92年にかけてのことである。こうして20世紀以降の量産モード誌——たとえば「Fémina」「Les modes」など——図版はほとんど網目写真中心の現代的な量産方式に変わっていくのである。

(石山 彰)

『文化女子大学図書館所蔵

続西洋服飾関係欧文献解題・目録』より転載



1895年 黒地に赤の小花柄のドレス。人工着色の写真版による印刷